

# テラドローンが描く次世代防衛：低コスト迎撃ドローンが変える現代戦の常識



**テラドローンに対応できる防衛**  
閉塞環境性能を拡張した統合的運用、週で異なる機体を開発するためにコスト効率的な開発、低コストドローンのシステムな配備を可能。



**2026年、防衛装備品市場へ本格参入**  
ウクライナ侵襲でのドローンの重要性増大を受け、産業界ドローンの知見を活かした迅速・低コストな新システムを提供を開始。



**ウクライナ企業への戦略的出資**  
Amazing Dronex社およびWinnyLab社と提携し、世界で最も過酷な環境から得られるフィードバックを開発に即時反映。



**グローバル展開の足掛かり**  
2026年度内に米国子会社「Terra Defense」を設立し、日本・米・NATO諸国を結ぶ技術・物流網を構築。

## 迎撃ドローン：多層防衛システムの構築



**多層防衛 (Layered Defense) とは**  
異なる特性を持つドローンを組み合わせ、通方での早期警戒から最終防衛までをカバーする堅固な防衛網。

**Terra A1 (ロケット型)：**  
短距離・高速迎撃

基地や重要インフラを狙う敵機に対し、最高時速300km/hの高速で自動追尾し、体当たりや榴弾の搭載で無力化。



**Terra A2 (固定翼型)：**  
長距離・広域警戒

固定翼機ならではの戦闘性能（40対以上の相行）を活かし、広範囲を長時間監視して脅威を早期に発見・撃墜。

### 迎撃ドローン性能比較

| 項目      | Terra A1 (ロケット型) | Terra A2 (固定翼型) |
|---------|------------------|-----------------|
| 主な役割    | 短距離・高速迎撃         | 長距離・広域防衛        |
| 最高速度    | 300km/h          | 312km/h         |
| 射程/航続距離 | 約30km            | 75km            |
| 飛行時間    | 即時展開・高機動         | 40分以上           |
| 特徴      | 自動追尾・体当たり        | 長時間警戒・早期発見      |

## 圧倒的コスト効率による「コスト非対称性」の解消



1機約2,500ドル(約40万円)の衝撃  
敵機内蔵の対空ミサイルを消費せずに、安価な機体ドローンを効率的に排除可能。

**ミサイル vs 迎撃ドローン**  
イラン製ジャヘド(約500万円)に対し、ミサイル(数億円)で対応する経済的不合理を、但コストドローンが根本から解決。

**実戦での有効性の証明**  
2026年4月、ウクライナ南部にてロシアの攻撃用ドローンを実戦で無力化することに成功。

## 未来の安全保障：無人兵器が変える戦場



**「ロボットは血を流さない」**  
ドローンと無人地上車両(UGV)の力で戦場を監視する作戦が成功し、兵士の命を守る新たな戦術が現実化。



**日本の防衛政策との運動**  
日本政府の多層的な防衛体制「SHIELD」構築へ対応し、将来の無人アセットの中核を担うことを目指す。

**継続的な技術革新**  
今後はジェットエンジン機体などにより高性能な迎撃ドローンの開発も視野に入れ、世界トップ5の防衛ドローン企業を目指す。